

体験版

あさなぎ

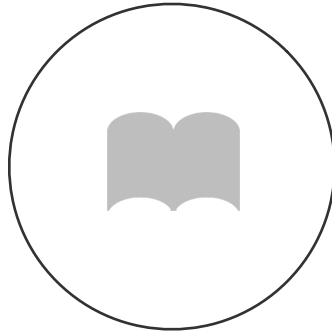
友野勇

GB

體驗版



体験版



パソコンでご覧頂く場合

Adobe Reader（リーダー）のメニューから次の2つの項目をチェックします

- 1 『表示』＞『ページ表示』＞『見開きページ表示』
- 2 『表示』＞『ページ表示』＞『見開きページ表示で表紙を表示』

体験版

体験版

あさなぎ

7

*

あとがき

90

ゴリアテボックス作品のご紹介

95

体験版

体験版

あさなぎ

1

街を歩いていても、つい商店の軒下の隅やビルとビルの隙間^{すきま}に目がいつてしまう。自社の取り扱っている自動販売機の寸法はすべて頭に入っているから、土地の実寸を測らずとも設置できるかどうか判るのだ。もう飛び込みで営業をかけることはなくなったが、主任に昇格してまあ、そんなしみついた癖^{くせ}は相変わらずだった。

個人商店の横に潰^{つぶ}して積み重ねてある段ボールの表記を見て、それが店のものかどうかで段ボールの置いてあるその狭い土地の所有者を特定したりするのだが、それを調べようと覗^{のぞ}き込んでいたら不審者扱いされて店主に怒鳴られたり訝^{いぶか}しむ顔で睨^{にら}まれたりと、新人の頃は散々な思いをしたこともあった。

会社の事業は主に清涼飲料水を扱う自販機の設置や管理、メンテナンスなどのサポートを提供していて、営業部の主な仕事がこの設置場所探しである。良い場所を見つけるとすぐに地権者と交渉するのだが、そうそう置いてもらえる訳ではない。やり手社員にはゴミ捨て場を自販機コーナーに換えてみせたりする猛者^{もさ}もいるが、やはりそれでも地道な経験と優れた交渉力が必要なのだ。

夏の終わりに吹く風が秋の気配を運んで来ても、都会の隅つこの小さな土地にはエアコンの室外機から吐き出される臭気まじりの温風が漂^{ただよ}っているだけで、高橋良二は顔を歪^{ゆが}ませてため息をつく。そんな時は必ず故郷の海を思い出し、微かな冷たい風を察して郷愁にふけるのである。

都心から少し離れたある町の駅前。古いビルの脇の道路とその境目で、鼻下に親指を立てて思案しているのは部下の野田^{のだ}である。野田は自ら

探してきたこの土地が自販機の新たな設置場所になるかどうか良二についてもらって検証しているのだが判断がつかない。後ろで心配そうに腕を組んで見ている良二。

野田は二五歳。この仕事にやり甲斐を感じていると最近いやに張り切っている。良二よりも小柄ではあるが横幅のある体軀からだに貼りつくような小さめの安価なスーツで毎日駆けぬけるように忙しく動き回っている。そして時折長いつき合いで多少甘えのきく上司の良二に願い出て、土地探しのコツや営業テクニクを教わっているのである。

目下の問題はここの地権者が誰かということなのだがよくわからない。ビルに面したこの奥行き八〇センチ幅ほどの地面には、あきらかにビルの外壁と同じコンクリートが使われていて地続きの様相をみせているがこの側道は市のものである。道とビルから続くコンクリートの境目が曖昧あいまいで幅も一定ではない。

ずっと二人は先輩後輩の関係でやってきた。

その感覚は今もそのまま残っている。野田は先輩つと言つて良二の顔を見てすぐに「あ、高橋主任」と言い直すが、今さら野田に主任なんて呼ばれるとどうしていいかわからないから「いいよ先輩で」と良二は笑う。

昇格して以降頻繁ひんぱんにこんなやり取りをしていて、そのつど野田も小首を傾かしげて快活に笑うのだが、短く刈上げた髪の上付近を立たせ、丸い顔で頬を赤らめているこの目の前の青年を見るたびに、良二は心のおかしなところが縮み上がって静かに動揺してしまふのである。

野田はビルの壁に向き直り屈んでコンクリートと側道の境を指差して何か説明しているようだがあまり要領を得ない。しかしそれよりもサッカーあがりで現役から体重が十キロ以上増加して、パンパンに張りつめたスーツパンツの後ろからワイシャツをはみ出させて一生懸命話をしてる彼がかわいくてしかたがない。

混雑する昼時をさけてそば屋に入る。結局答えの出なかつたあのビルの側壁のスペースについて、近く区画整理がありその調整地域であることを野田に話すと「知ってたんすか!」とすつ頓狂な声を上げるので後ろの老夫婦が同時に振り向いた。

良二はおもむろに上着の内ポケットから古くなった皮表紙のメモ帳を取り出し、焼きおにぎりのご飯粒をあごにつけた野田の前に頁を開いて置いた。野田はとりあえず残りのおにぎりを頬張ってからそれを手に取ろうとしたが、醤油しょうゆのついた指に気づいておしぼりでせわしく拭ぬぐい、残っていたお茶を一気に飲んでおにぎりを流し込んだ。良二がお茶のおかわりを店員に頼む。

手帳は良二が若い頃から使っている仕事についてていねいの調べものをまとめたもので、丁寧な字で几帳面きちょうめんに細かく書かれている。件の土地くだんは明後年の春に行われる駅前駅前の再開発に合わせて整理

されるところで、側道のように見えていた場所は元々側壁のビルの所有者から市が買い取って更地にした所なのである。ぞんざいに見えた境目はやがてそのビルも取り壊されるので放置されていたのだ。とはいえ地権者が誰であろうが2年も経たぬ間にビルもろとも撤去されてしまうことを良二は詳しく説明した。

良二はこのやる気に満ちたハツラツとした青き獅子にこそ、自分のような地道な考察が必要だと考える。今はその勢いで体当たりできてもいずれ強靱きょうじんな力が必要になる。良二はそんな武器を野田に伝えるも、その牙きばを研ぎ成長させるのはやはり野田自身であると思った。

「え、これってマジですか!」と再び声をあげお茶を一気飲みして手帳に目をやった。野田を驚かせたのはその開発事業についてのメモが公表される二年も前に書かれていたからである。このスペースは死角にはなっているものの人通りも多く確かに条件としては申し分のないところ

である。だが自信を持って案内したこの土地も良二によつてずっと前に調査済みであつたことに、野田は不^ふ甲斐^{がい}ない気持ちと同時に良二への尊敬の念を改めて抱^{いだ}くのである。良二はそんな野田の眼差しを知つてか知らずか店員にお茶のおかわりを頼んでいた。

野田は感激したといつて良二を離さず、結局終電まで居酒屋で話し込んでしまった。新人の頃は当たり前のように遅くまで飲んで騒いでいたが、最終電車に駆け込んだのはもう何年も前の話である。普通電車しか停まらないこの小さな駅に、最後の電車で降り立ったのはいつの頃か。改札を抜けて今乗つて来た電車が踏切を過ぎていくと、プラットホームのいくつかの明かりが落とされ、もう久しく見慣れない深い暗闇の風景がどんよりと横たわつた。

この町は受験のときに初めて訪れたところで大学生生活もここに決めた。一度実家に戻つたも

のの就職が決まつてからも再びここで暮らすようになった。

駅からすぐのコンビニで菓子パンをいくつかと缶コーヒー、そしてペットボトルの水を2本買つて商店街に続く道沿いの小さな公園に寄つた。いつもなら忙しなく帰宅する人の隙間にまぎれてそのまま商店街をぬけてマンションまでたどり着くのだが、もう更^ふけてしまつた闇の中に駅から散つたまばらな人の形跡もなく、いつもは気にしないのに学生のころ身体を慣らしたこの公園に懐^{なつ}かしさを感じたのである。

毎日この横を歩いているのにもう随分長い間入つたことがないなあと小さな木立の群れの側にある街灯を見上げた。揺^ゆれる木々の葉が優しい音を落として、良二はようやく微かな秋の香里を感じる事ができた。

ベンチに腰を下ろしてしばらく涼みながら、遠い海の風に似たひんやりとした空気が通り過ぎて行くのをそのままに記憶の橋を渡っていた。

——漁師の父は当時三〇歳前後。野田よりも少し上だが印象に残っている男はとて大人だった。夜は早飯ですぐに寝てしまうので幼い良二はあまり話した記憶がない。もともと寡黙かもくなうえに酒もタバコも博打もしない、毎日漁に出るだけの男だった。

ある明け方、まだ暗い中、目を覚ました良二は玄関で靴を履くは父の背中をふすまの隙間から認めてそのまま父を呼び止めた。むやみに叱るしかことはなく、しかしいつも真面目な顔で良二を見下ろしている父であったが、この時はなにか驚いたように眉を上げ片手を差し出して微笑んでくれた。

父の手はかさついていて、分厚い皮膚は硬く深い皺しわがいくつも刻まれていた。指の一つ一つが太く、それでも小さな良二の手は二本の指をしつかりと掴んでいた。玄関から外へ出ると敷き詰めたようにその場に止とどまっている冷たい空

気が歩くたびに体へまとわりついてくるような気がした。父は良二の指を解いてその小さなこぶしを手のひらいつぱいに包み込んで握り直してくれた。

すぐ前の船着き場や海岸線の岩場、その向こうの小さな海上灯台も見渡せる堤防の高みに立ち、父はもう明け始める空と海の境目を見つめているようだった。「静かだろう」と言う父の言葉に、良二は初めていつもと違う光景であることに気がついた。

岩に打ちつける波も停泊している漁船同士の間擦れるきしみも、海から吹いていた荒っぽい風も何も無いのである。いつもの耳に当たるぼううつという風の音もない静止した空を仰あおいで良二は父を見上げた。「朝風あさなぎだ。今日はさかながたぐさん捕れるぞ」と海を見つめたまま父は言った。海は鏡のように黙だまったまま黒く鈍く光り、まだ見ぬ陽よちようの予兆らしき薄紫の凍った雲をそのまま逆さまにして遠くに映し出していた。

あさなぎというものがどういうものか解らなかったが、良二はこの不思議な瞬間、本当の父を知った思いがした。寡黙^{かもく}でいることも自分に関わろうとしないことも、感じていた大きな父のその先にあるもつと大きな自然の姿を見ているとその父の秘めた日々の感慨も理解出来るように思った。

結婚する意味に拘^{こたわ}りを持っているということ
を理由にしながら、本当は身体の大きな年上の男を見かけると目で追ってしまおうという心疾^{やま}しいこの性質は、父のあの筋肉の盛り上がった背肩が記憶の底に沈^{ちん}殿^{でん}したまま残っているからだ
と良二は考えていた。そしてこぶしを包み込んでいた冷たく硬い皮膚の内側から、やがてしみ出るように父の温もりが伝わってきたあの切ない愛情をいつまでも忘れられないからだと思った。――

公園の隅の草むらを見つけ分け入って小便を

する。久しぶりにビールをがぶ飲みしたから勢いが止まらない。別に焦^{あせ}ることもなし、そのままして夜空を仰いでいたら後ろから小さな声がした。何度か聞き直すと「さっき見てましたよね」と繰り返す初老の男。

小便を出したまま上体をよじつて首を回すと、男も体をよせて小便の出ている辺りに顔を近づけて「さっき目が合いましたよね」と目線を下にしたまま言った。男の暖かい息が小便の吹き出ている亀頭に触れている。

男はコンビニで良二と視線を合わせて以降ずっと辺りで様子を窺^{うかが}っていたようで、お互いに知っての行為だと確信し大胆に身体を寄せて来たのだ。小便が太く旋回しながら流れ出ているのを愛おしそうに目で追って「凄いなあ」と陰茎の裏下、ちょうど尿道の膨らみあたりにそつと手を添えて振動を楽しんでいる。

男の横顔が暗闇と街灯の明かりの境目でぼやけていて、良二はコンビニで見た男がどんな顔

だったか思い出そうとしたが出来なかった。小便が途切れ途切れになっても男は良二に触れたままにしていた。

「ああ、汚れます」と良二。どう言えいいのか突然のこととよく分からず、しかしその行為に抵抗しているわけではない自分に平静だった。男はうなずきつつも陰茎の太さや重さを確認するよう、

「ちよつとだけ動かすよ、ほらやつぱり大きく……うわあ、凄い大きくなったね。太いなあ、まだ膨れてくるよ。わあ全部むけちゃったね」

光沢のある亀頭の先を親指で摩さすつて透明な滑ぬめりを広げていった。

「いくつ？ 身体大きいね。何かスポーツしてたの？ ふつくらしても運動してた人の身体って判るよね。お尻とかね、ほら。まだ若いかな。お尻もふつくりすべすべだね。ほらパンツ下げるよ。その方がお尻見えるしね。ちゃんとしごいてあげるからね。ほらほら」

葉はむら叢の暗がりからもう一人の男が少し距離を保ったまま二人の行為を真剣な眼差しで見ている。良二がそれに気づいて身体をすくめるが初老の男は見ているだけだからといいながら片手で陰茎をしごき、もう片方の手でズボンをパンツと一緒にずり下げた。どうやらその男を知っている口ぶりである。

「君のような人がタイプみたいだから見せてあげなよ、ね。ほら、全然硬かたいまんまだよ、凄いなあ。こつち向いて。ほおら街灯でよく見えるよ。わあ太つといなあ。ほらもつと下げるよズボン。汚れるといけないからね。へえ腿ももも太いねえ。やつぱりスポーツしてたでしょ、ねえ」

足首にパンツやズボンが絡まって動くことが出来なくなると、それをきっかけに覗いていた男が少し前に首を伸ばした。街灯の逆光で顔は真つ暗で見えず輪郭りんかくだけが浮かび上がっていた。黒っぽいスポーツウエアの上下を着ているように見える。初老の男は良二の返答など聞く気も

なく喋り続ける。

「大丈夫、ワイシャツのボタン外すだけだよ。いいよね。だってあの人見たいんだって、ほらこのお腹。ちよつと出てるほうが男らしいよね」

「ああ、あまり強くすると出るかもしれない」

「ごめんごめん。これくらい？ ああ我慢汁でぬるぬるだね。もういききたいの？ いくときは言つてね。もういく？ じゃあ下のシャツまくるね。乳首見せて」

「ああもう、いきそうです」

「わあ、乳首も立っちゃつてる。感じるんだね。舐めてあげるからいいよ。ほら、あんたもそっち舐めなよ。そうそう。ああ、凄い、身体そんなに反っちゃつて、気持ちいいんだあ。ぎんぎんのチ○ポ突き出して丸見えだよ」

「出る」

「ううわ、うわつ、うわつ、うわつ、まだ出る、うわつ、うわあ。凄いなあ、飛んだね。ああ、まだどろどろ出てる出てる」

「ああっ」

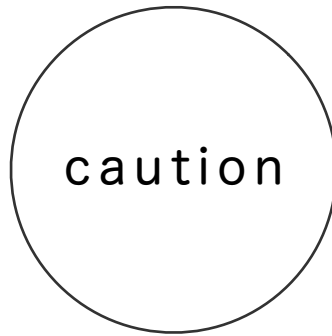
「きれいにしとくからね。ふおほ、ほらあんたもくわえさせてもらいな。まだ出るから、ね」
……

ベルトを締め直したところにはもう誰もいなくなっていた。良二自身、自分がどういう人間なのかよく分からない。女には優しく出来るが親身にはなれない。しかし男には厳しくするのに相手の心に触れようとする。決して意識している訳ではない。しかしあきらかに心が揺れるのは男なのだ。

この住み慣れた小さな町でこんなことをしたのは初めてである。隠していた気持ちには偽りはないが、ここでやってしまった行為には言い知れぬ罪悪感がつきまとう。それは若い頃の何も知らなかった自分がこの地で躍動していたことと、ついさつき遠くに感じた海の風と朝風の父を思い出していたからに違いなかった。

しばらく目を閉じて風の音を聞いていたが記憶の橋を見つけることはできなかった。

第二章へつづく



この物語はフィクションです。実在の個人、団体、地域とは一切関係ありません。

この作品は空想物語です。公序良俗に反する行為や、性の描写について性感染症のリスクを伴う表現が含まれていますがこれらを推奨するものではありません。

性交渉においては正しい知識と判断で性感染症を予防しましょう。

体験版



あさなぎ

2015 年 3 月 発表作品

著 者 とも の いさむ
友 野 勇

サークル ゴリアテボックス [Goliath Box]


当作品の文章、画像等の無断転載、また複製やネット共有へのアップロードなどを禁止します。

ホームページ・ブログ・ツイッターで作品の情報をお知らせしています。
また小説投稿サイト「FC2 小説」で作品を発表しています。



goliathbox.x.fc2.com
site
GoliathBox

goliathbox.blog.fc2.com
blog
GoliathBox



<https://novel.fc2.com/user/35498161/>
FC2小説
GoliathBox



@Tomono_novel

GB

GoliathBox

サークル・ゴリアテボックス

作品のご紹介



It supports various terminals device.

ゴリアテボックス
友野勇の小説

乾颯太郎淫行記 1

高校の先輩に誘われてラグビーを始めた颯太郎。

大学ではその逞しい身体と希有な運動神経で皆に期待されるが結果が伴わずに苦悩する。

そんな新人の颯太郎に性処理をさせながらも慈愛に似た感情を持ってしまう2年先輩の鴻野。ノーマルで男同士の愛情に戸惑いながらも颯太郎との関係は深く強くなっていく。

しかし一方で颯太郎は羞恥の快楽に目覚めて淫猥な世界に堕ちていくのだった。



官能中編小説

挿絵なし(場面 見取り図)

約 47,700 文字

新編集 (B5 判)

本編 87 ページ

全編 152 ページ

旧編集

PC 用 96 ページ

スマホ用 291 ページ

*新編集版の全編にはその
他の作品紹介も含まれて
います

読む本
じっくり



ゴリアテボックス
友野勇の小説

乾颯太郎淫行記 2

ラグビーで鍛えたその身体が羞恥の快楽に溺れていく……。

暗闇の淫猥な世界の果てに見た男同士の恋愛は本当に存在するのだろうか。颯太郎の淫行の旅が続く。

乾颯太郎淫行記のシリーズ第2章です。

各章は新たなお話と登場人物によって完結していますので『乾颯太郎淫行記1』を読んでいない方もお楽しみ頂けます。



官能中編小説

挿絵なし(場面 見取り図)

約 45,000 文字

新編集 (B5 判)

本編 83 ページ

全編 148 ページ

旧編集

本編 315 ページ

全編 394 ページ

＊各全編にはその他の作品
紹介も含まれています

読む本
じっくり



ゴリアテボックス
友野勇の小説

不知火

強く男らしい男を求める裕太。
極道の世界を生きる伊沢。
二人は強烈にぶつかり合い、交わり合いながらそれぞれの道を見い
だしていく。

官能中編小説

挿絵なし(巻頭イラスト)

約 52,000 文字

新編集 (B5 判)

本編 93 ページ

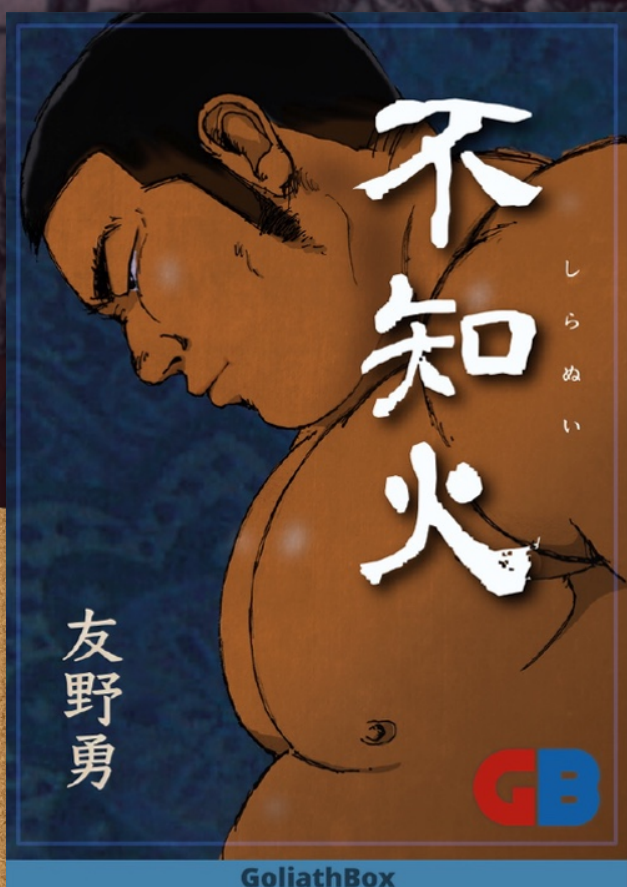
全編 144 ページ

旧編集

本編 179 ページ

全編 272 ページ

*各全編にはその他の作品紹介
も含まれています



読む本
じっくり



あさなぎ

自販機の設置や管理をしている会社で高橋良二は営業部の主任を務めている。

部下の野田とは長年同じ業務を受け持つ先輩後輩の仲で、野田は良二を仕事の面でも人としても尊敬しているのだが、年上の大柄な男に引きつけられてしまう性癖を持った良二は、そんな年下の野田にも最近男として不思議な魅力を感じ始めていた。

ある日良二は自宅近くの公園で知らぬ男たちと淫猥な行為におよび、亡き父の影を引きずっていることと関係があるのだという思いに戸惑うのだった。

官能中編小説

挿絵なし

約 57,000 文字

新編集 (B5 判)

本編 93 ページ

全編 150 ページ

旧編集

PC 用 100 ページ

スマホ用 282 ページ

＊新編集版の全編にはその
他の作品紹介も含まれて
います

じっくり
読む本



ガチデブの俺が...

01 風呂のぞき ガチデブ作業員

最近 男が風呂場を覗いてるんです

02 秘湯 濡れた穴の真実

ガチデブの俺が山奥の温泉に行きました

03 ジム陵辱 ビジター体験

元ラグビー部ガチデブの俺が初めてのスポーツジムで常連の洗礼を受けました

04 ビデオ屋ガチムチ店員のおすすめ秘蔵映像

ガチデブの俺が変態店員のいるビデオ屋に行きました

05 臨時更衣室 真昼の情事

ガチデブの俺が変態クライアントの要望でゆるキャラになりました

06 銭湯ガン見 柔道部員罰ゲーム

ガチデブの俺が変態柔道部員のいる銭湯に行きました

07 早朝ジョギング

出会い系公衆便所

ガチデブの俺が変態ガチムチジョギング男と知り合いました

08 オフィスにお届け！

ガチムチ宅配サービス

ガチデブの俺が疑惑の宅配野郎と遭遇しました

09 車座セックス

廃品倉庫の快樂倶楽部

ガチデブの俺が変態倶楽部で輪姦されました

10 過激ビデオモデル

双子兄弟2本挿し！

ガチデブの俺が理想の男たちに掘られました

猥想短編小説集

挿絵なし(各タイトル表紙絵のみ)

約 57,800 文字

B5 判

本編 137 ページ

全編 200 ページ

*全編にはその他の作品紹介も含まれています



ガチデブの俺が 2

- 01 終電寝過ごし
恐怖の深夜タクシー
ガチデブの俺がノンケ運転手のタクシーに乗りました
- 02 下町工場
ガチムチ技術工員の淫行
ガチデブの俺が変態工員に遭遇しました
- 03 河川敷 変態画家のエチュード
ガチデブの俺が絵画モデルになりました
- 04 男専マッサージ
熊系エロエロコース
ガチデブの俺がメンズマッサージサロンに行きました

- 05 童貞喪失？
ラグビー部後輩ムッチリくん
ガチデブの俺が部活の後輩と呑み会しました
- 06 海パン選び
ムッチリ変態店員エロ試着
ガチデブの俺が今年の水着を買いに行きました
- 07 公開挿入！
ド淫乱カフェレストラン
ガチデブの俺が衆人環視で中出しされました
- 08 深夜のコインランドリー
露出交尾中毒
ガチデブの俺が不審なド変態野郎の淫乱交尾を目撃しました
- 09 お試しプレイ
アダルトショップで穴くらべ
ガチデブの俺が公開アナニーで張り型を買いました
- 10 パーキングエリア
変態トラックer輪姦
ガチデブの俺がトラック野郎どもに中出し輪姦されました

猥想短編小説集

挿絵なし(各タイトル表紙絵のみ)

約 53,000 文字

B5 判

本編 137 ページ

全編 200 ページ

*全編にはその他の作品紹介も含まれています



ゴリアテボックス
友野勇の小説

実況！玄関目隠し 四つん這い穴待機！

ハッテン場でスタッフに声をかけられたガチムチ智也くん。
好奇心旺盛な智也くんが玄関目隠し四つん這い待機に初挑戦！

スタッフはマンションの別の部屋からモニタリング。
ヘッドセットマイクで智也くんに指示を出しながら隠しカメラで状況を見守る。
なにかあったらマイクで知らせてね！っとはいいつつもスタッフから次から次へとえっちな指示が！

猥想短編小説

文／絵
友野 勇



猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

17

枚

＊差分5枚含む

B5 判

本編 70 ページ

全編 132 ページ

＊全編にはその他の作品紹介も
含まれています

ゴリアテボックス 友野勇の小説

エロドロ

全ページオールカラーのビジュアルノベル B5 判。
人を騙して金を盗る悪いやつには制裁を！露出好きなら変態ヤツて
るところをスマホでライブ配信しようぜ！エロすぎる英雄伝説
ある郊外の小さな公園。その中にある公衆便所にはある噂が……
秘めた男たちの社交を荒らす悪者に、制裁を行うヒーローが現れる
という。男子便所の個室に書かれた文字。闇に隠れたサイトへアク
セス。…
いつ現れるのか誰にもわからない。その正体も謎につつまれている
のだ。そんなある夜、その暗号めいた便所の落書きがあった。確かに
「エロドロ」と書かれ、コードナンバーも。そうしてまた贖罪が行
われる。罪と罰の名のもとに。……

猥想短編小説

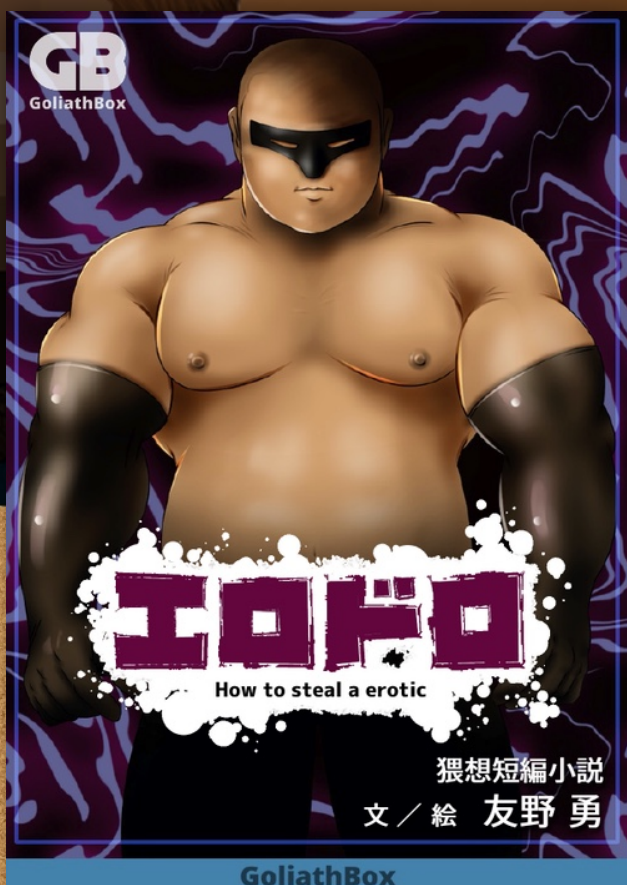
全項カラーイラスト
(ビジュアルノベル)

B5 判

本編 75 ページ

全編 138 ページ

*全編にはその他の作品紹介も
含まれています



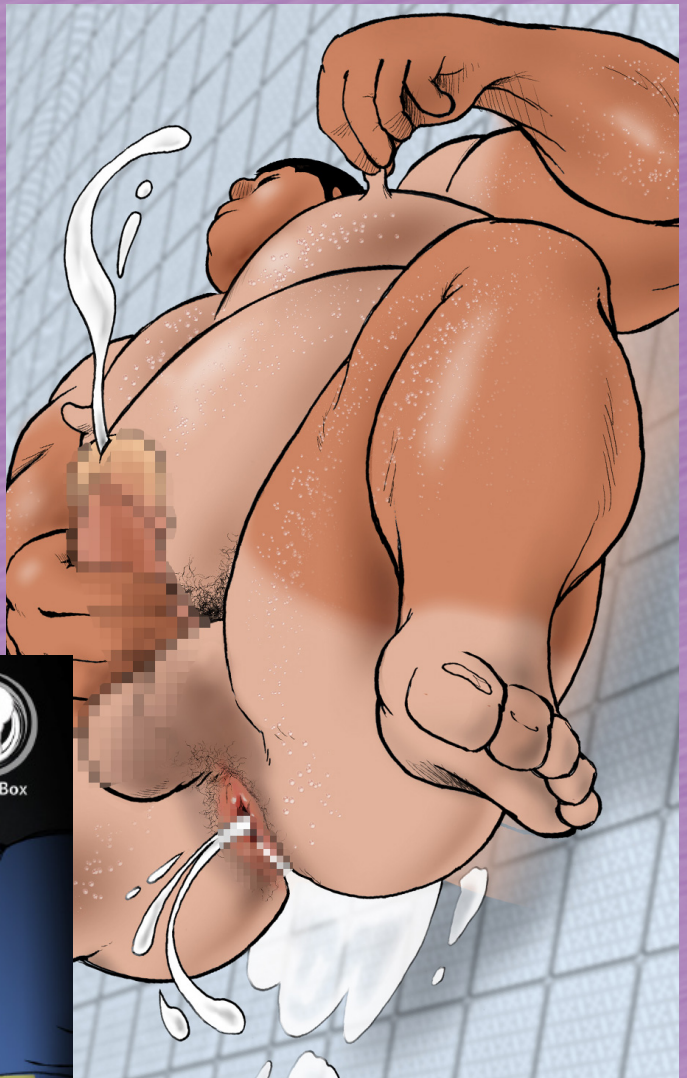
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

6

枚



耕太郎
(仮名)

ハッテン インタビュー

猥想短編小説 文/画 友野 勇

人知れず存在する秘密の社交場。そこへやってくる淫乱野郎に直接交渉。さまざまな話を聞きながらその実態を暴く。突撃ハッテン場インタビュー。真夜中の公園でヒマしてたガチデブの構太郎くん（仮名）この世界での体験を赤裸々にエロエロ告白してもらいました！

ゴリアテボックス
友野勇の小説

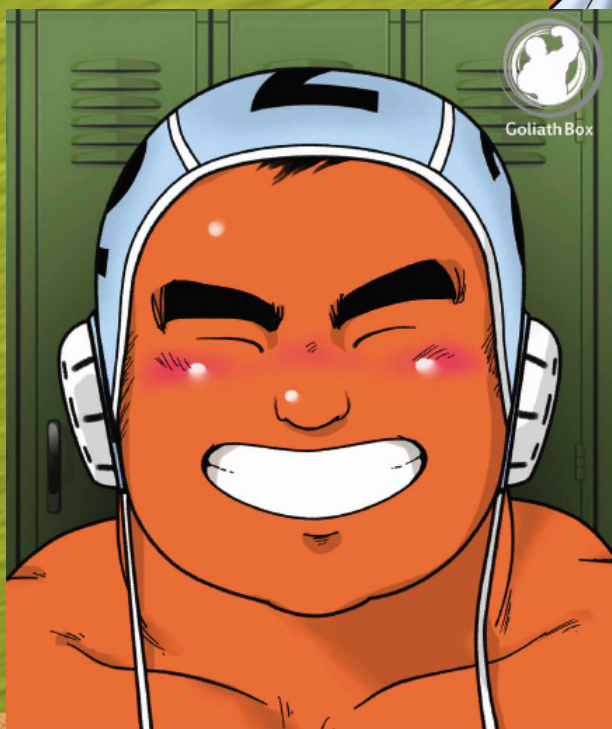
猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

11

枚

(差分5枚含む)



行列ができる 水球部員

猥想短編小説 文/画 友野 勇

街角の小さなタバコ屋でアルバイトする水球部員のマサル。訪れる客に謎のポイントカードを配布してなにやらスケベなサービスをしているらしいのだが……

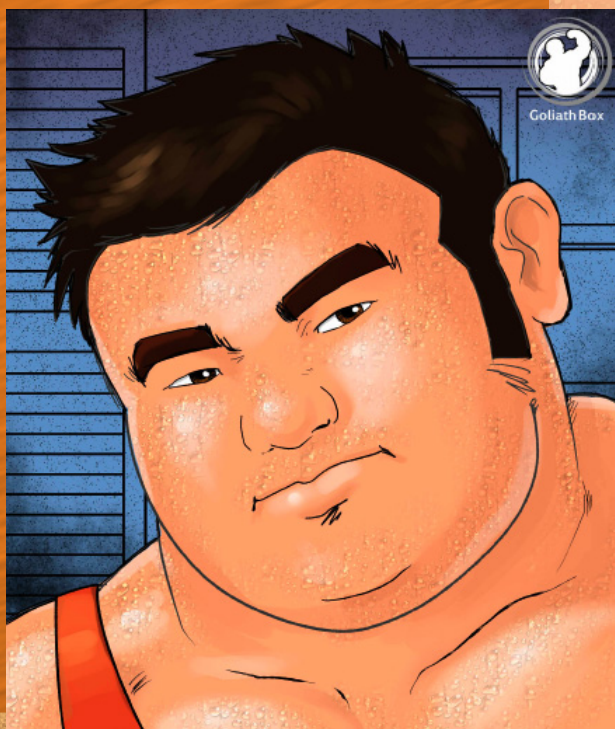
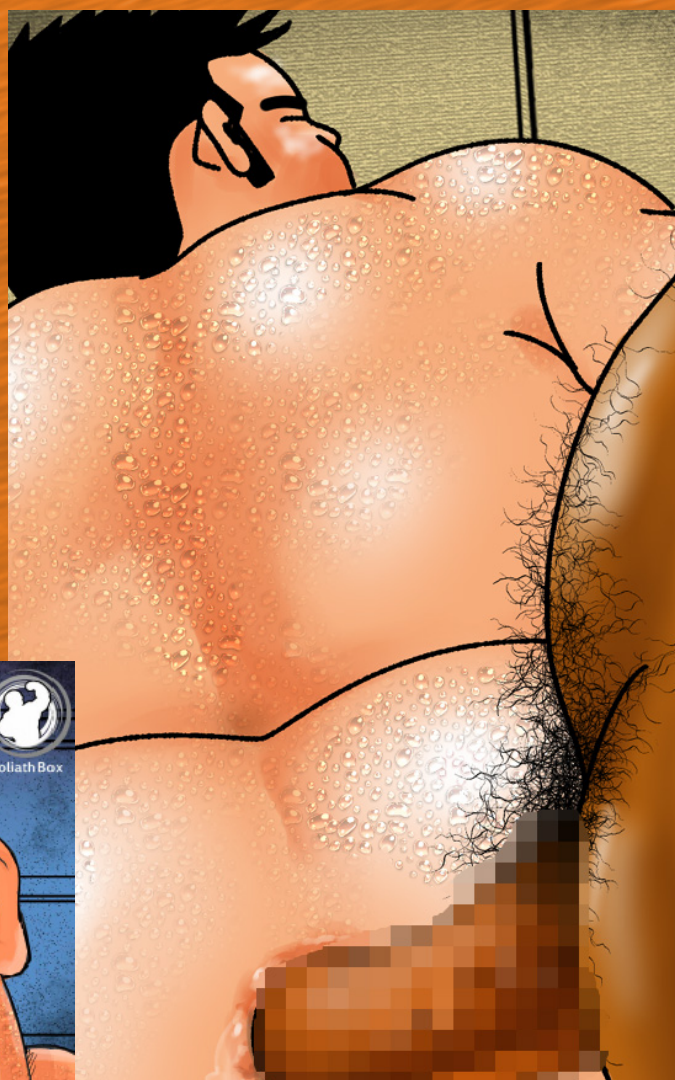
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

6

枚



レスリング部員 倉庫でゴックン

猥想短編小説 文 / 画 友野 勇

学園祭間近のレスリング部。
当日のイベント広告のチラシを印刷
所に取りに行くよう頼まれたガチデ
ブ橋本。そこで待っていたレスリン
グ部 OB 剛田先輩が.....

ゴリアテボックス
友野勇の小説

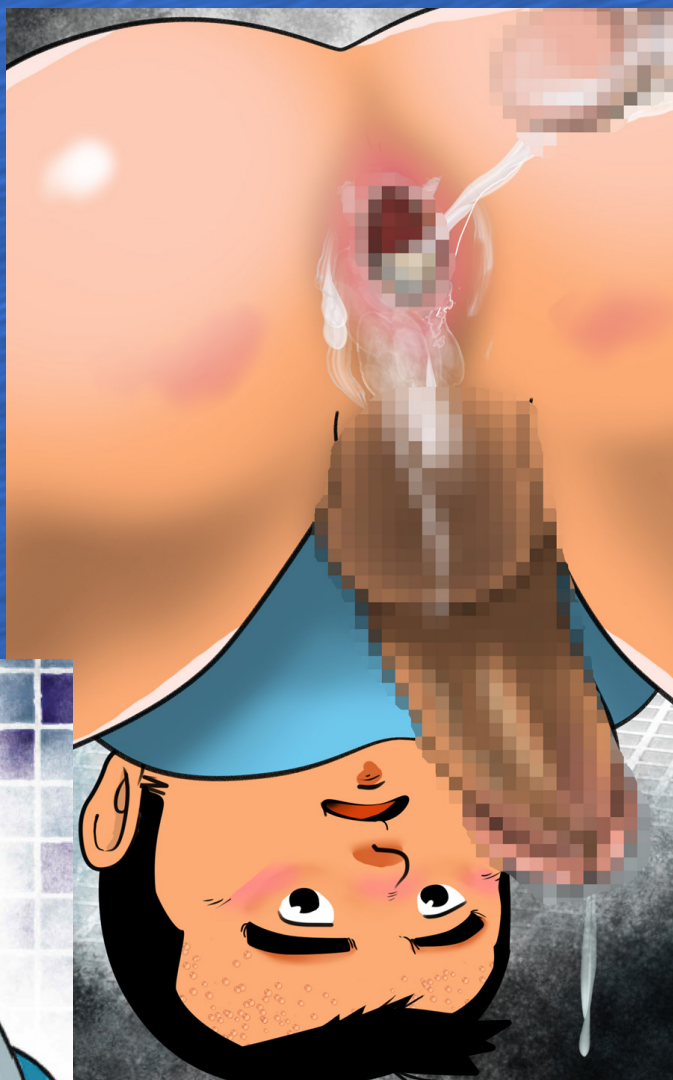
猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

7

枚

(差分含む)



ラグビー部員 銭湯でガバガバ

猥想短編小説 文 / 画 友野 勇

ガチムチラガーマンの翔太は銭湯大好き！今日はいつも通っている馴染みの銭湯で清掃のアルバイト。でも部活帰りにちょっとお小遣い稼ぎにと思っていたら……

ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

白黒
エロ挿絵

6

枚



柔道部員 公衆便所でベチヨベチヨ

猥想短編小説 文/画 友野 勇

朝の練習中、突然もよおして便所へ
駆け込むガチムチ柔道部員の田島。
しかしそこは清掃中！作業している
おじさんに断られたが我慢出来ずに

.....

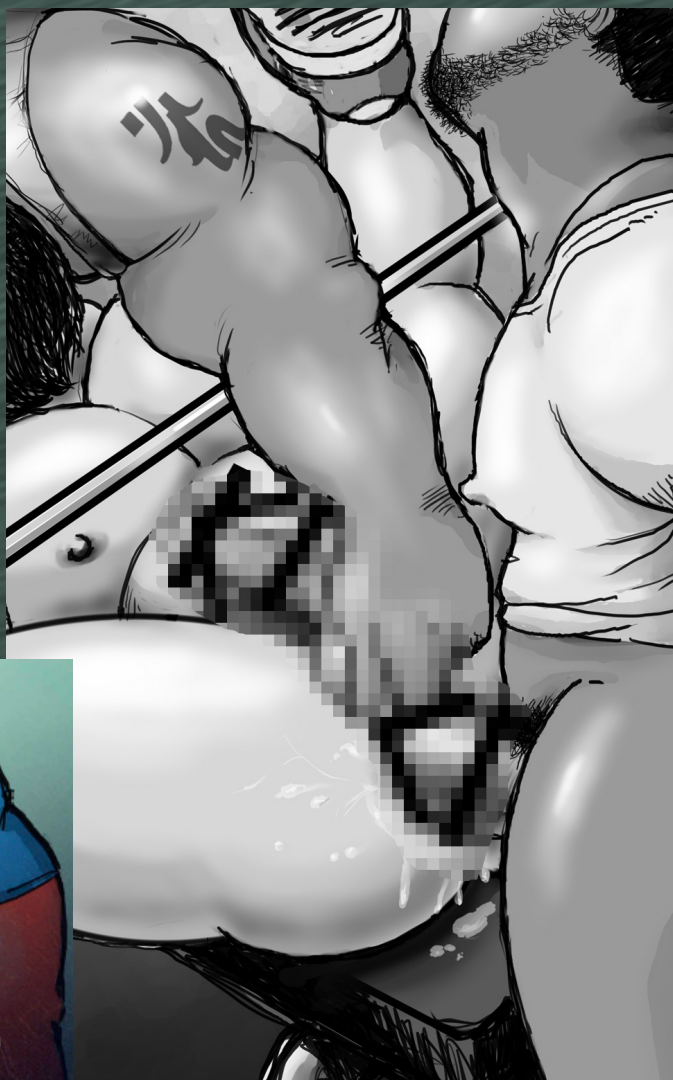
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説集

白黒
エロ挿絵

8

枚



のぞく
変態不動産
専門ジム

猥想短編小説集
文/画 友野勇

古いアパートのガチムチ男を覗き見する啓介、しかし... (のぞく)
部屋探しで訪れたへんな不動産屋。格安物件の秘密とは... (変態不動産)
ネットで見つけた誰も知らないスポーツジム。変態すぎる男たち。(専門ジム)
短編小説3話です。

ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説 コレクション

初期の挿絵入短編作品を新たに B5 判で新編集。PC、タブレットで読みやすくなりました。

- ショートタイム猥想短編小説集・のぞく
- ショートタイム猥想短編小説集・変態不動産
- ショートタイム猥想短編小説集・専門ジム
- 柔道部員 公衆便所でベチョベチョ
- ラグビー部員 銭湯でガバガバ
- レスリング部員 倉庫でゴックン
- 行列ができる水球部員
- ハッテンインタビュー

猥想短編小説集

友野勇初期創作作品集

短編小説 8 篇

約 70,500 文字

新編集 (B5 判)

本編 167 ページ

全編 224 ページ

*全編にはその他の作品紹介
も含まれています

猥想短編小説 collection

友野勇初期創作作品集 〈Early creations〉



GoliathBox



GoliathBox

← next



ゴリアテボックス
タッピングゲーム

簡単着せ替えゲーム

PDF ビューアで遊ぶ、着せ替えゲーム！

30 パターン以上のコスチュームとゲームクリアでおまけ画像あり！スマホやタブレットでもプレイできます！ガチムチなわがままケンタの満足度100%をめざせ！基本的には1ポーズの差分画像で遊ぶゲームです。複数のシチュエーション（シーン）があるわけではないのでご注意ください。ゲームで使用しているリンクボタンは Adobe Reader 以外のアプリケーションでも動作するものがありますが保証の限りではありません。また、OS や Adobe Reader のバージョンによっては、動作しない場合があります。購入を検討される前に必ず体験版で動作確認するようお願いします。

わがまま

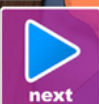
KENTA の

着せ替え ゲーム

グレーのパーカー

ブルーのブルゾン

1 %



こういう感じもいいよね

10 %



20 %





Copyright (C) 2020 Isamu Tomono All Rights Reserved.